

「JENESYS2017」2017年度中国高校生訪日団第4陣（招へいプログラム）の記録 （対象国：中国、テーマ：ものづくり）

1. プログラム概要

中国教育部が派遣した2017年度中国高校生訪日団第4陣計174名が、12月5日から12月13日までの8泊9日の日程で来日しました（団長：呉秀華（ゴ・シュウカ）黒龍江省教育国際交流中心 主任）。一行は6つのグループに分かれ、東京のほか、鹿児島・茨城・長崎・福岡・熊本・愛知等を訪問。各地の高校を訪問し、日本の高校生との交流を通じて、同世代同士の友情を深めました。また、大手メーカーのミュージアムや伝統工芸の工房視察・体験等を通じ、訪日団のテーマである日本のものづくり精神について学び、和風温泉旅館宿泊体験、地方の歴史・自然・文化等の見学などを通じ、日本の魅力を体感しました。中国高校生は今回の訪日で多くの人々と交流し、日本人の考え方に触れ、様々な角度から日本理解を深めることができ、見聞したことや体験したことを自身のSNS等を通じて発信しました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、各グループの代表者が発表しました。

【訪問地】 東京都（全員）、鹿児島県（27名）、茨城県（27名）、長崎県（59名）、福岡県（59名）、佐賀県（31名）、熊本県（88名）、愛知県（88名）

2. 日程

12月5日（火）

羽田空港、成田空港より入国

●Aコース グループ1・2・3

【見学】皇居二重橋、浅草寺・仲見世

12月6日（水）～12月11日（月） ※6グループに分かれてプログラムを実施

●共通プログラム：東京都

【オリエンテーション】

【セミナー】日本のものづくりの発展と精神性について

【歓迎会】

●Aコース グループ1：東京都/鹿児島県/茨城県

【学校訪問】鹿児島県立鹿屋工業高等学校（職業科交流）、茨城県立取手第一高等学校

【体験】草木染め、温泉旅館宿泊

【見学】東京国立近代美術館工芸館、パナソニックセンター東京、鹿児島県上野原縄文の森、大島紬織工程、鹿児島県歴史資料センター黎明館、仙巖園・尚古集成館、薩摩ガラス工芸、東京臨海広域防災公園、お台場

- A コース グループ2：東京都/長崎県/福岡県
 【学校訪問】長崎県立長崎東高等学校、福岡県立京都高等学校
 【テーマに関する視察】TOTO ミュージアム
 【体験】狂言、温泉旅館宿泊
 【見学】日本科学未来館、お台場、大浦天主堂、グラバー園、平和公園、門司港レトロエリア、太宰府天満宮、九州国立博物館、北九州市漫画ミュージアム

- A コース グループ3：東京都/長崎県/佐賀県/福岡県
 【学校訪問】長崎県立佐世保北高等学校、福岡市立福岡西陵高等学校
 【テーマに関する視察】ニコンミュージアム
 【体験】狂言、温泉旅館宿泊
 【見学】平和公園、グラバー園、波佐見焼窯元・中尾山、唐津城、からつ曳山展示場、太宰府天満宮、九州国立博物館、博多町家ふるさと館

- B コース グループ1：東京都/熊本県/愛知県
 【学校訪問】熊本県立八代工業高等学校（職業科交流）、
 名古屋大学教育学部附属高等学校
 【テーマに関する視察】トヨタ産業技術記念館
 【体験】花手箱の絵付け、温泉旅館宿泊
 【見学】皇居二重橋、浅草・仲見世、熊本城、水前寺成趣園、熱田神宮、徳川美術館、
 名古屋テレビ塔

- B コース グループ2：東京都/熊本県/愛知県
 【学校訪問】熊本県立八代清流高等学校、名古屋市立名古屋商業高等学校（職業科交流）
 【テーマに関する視察】トヨタ産業技術記念館
 【体験】花手箱の絵付け、温泉旅館宿泊
 【見学】皇居二重橋、浅草・仲見世、熊本城、水前寺成趣園、熱田神宮、徳川美術館

- B コース グループ3：東京都/熊本県/愛知県
 【学校訪問】熊本県立熊本西高等学校、愛知県立東海南高等学校（バレーボール交流）
 【テーマに関する視察】トヨタ産業技術記念館
 【体験】名古屋友禅染、温泉旅館宿泊
 【見学】皇居二重橋、浅草・仲見世、阿蘇火山博物館、草千里、熊本城、湧々座、水前寺成趣園、熱田神宮、ミツカンミュージアム

12月12日（火）

- 共通プログラム：東京都
 【テーマに関する視察】TEPIA 先端技術館（Aコース グループ1）
 【見学】東京タワー（Aコース グループ1・2・3、Bコース グループ2・3）
 増上寺（Bコース グループ1）
 【歓送報告会】訪日成果、帰国後の活動計画発表

12月13日(水)

●Aコース グループ1

【見学】国会議事堂、日本科学未来館

●Bコース グループ3

【見学】お台場、成田山深川不動堂、日本科学未来館
羽田空港より出国

3. プログラム記録写真

<共通>	
	
12月6日 ものづくりに関するセミナー (東京都)	12月6日 ものづくりに関するセミナー (東京都)
	
12月6日 歓迎会 外務省アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課 中原邦之地域調整官 による挨拶 (東京都)	12月6日 歓迎会 合唱を披露する中国高校生 (東京都)



12月12日 歓送報告会 団員による感想・
アクションプラン発表(東京都)

<Aコース グループ1>



12月8日 鹿児島県立鹿屋工業高等学校
訪問・職業科交流(鹿児島県)



12月11日 茨城県立取手第一高等学校
訪問・交流(茨城県)



12月9日 薩摩ガラス工芸見学(鹿児島県)



12月12日 TEPIA 先端技術館視察(東京都)



12月9日 体験プログラム(草木染め)
(鹿児島県)



12月13日 国会議事堂見学(東京都)

<Aコース グループ2・3>



12月10日 体験プログラム(狂言)(福岡県)



12月10日 体験プログラム(狂言)(福岡県)

<Aコース グループ2>



12月8日 長崎県立長崎東高等学校
訪問・交流(長崎県)



12月11日 福岡県立京都高等学校
訪問・交流(福岡県)

<Aコース グループ3>



12月9日 TOTOミュージアム視察(福岡県)



12月8日 長崎県立佐世保北高等学校
訪問・交流(長崎県)



12月11日 福岡市立福岡西陵高等学校
訪問・交流(福岡県)



12月6日 ニコンミュージアム視察(東京都)



12月9日 からつ曳山展示場参観(佐賀県)



12月10日 波佐見焼窯元見学(長崎県)

<Bコース 共通>



12月6日 皇居二重橋見学(東京都)



12月10日 トヨタ産業技術記念館視察(愛知県)

<Bコース グループ1・2>



12月7日 体験プログラム(絵付け体験)
(熊本県)



12月9日 熊本城見学(熊本県)

<Bコース グループ1>



12月8日 熊本県立八代工業高等学校
訪問・交流(熊本県)



12月11日 名古屋大学教育学部附属高等学校
訪問・交流(愛知県)

<Bコース グループ2>



12月8日 熊本県立八代清流高等学校
訪問・交流(熊本県)



12月11日 名古屋市立名古屋商業高等学校
訪問・職業科交流(愛知県)

<Bコース グループ3>



12月8日 熊本県立熊本西高等学校
訪問・交流(熊本県)



12月11日 愛知県立東海南高等学校
訪問・バレーボール交流(愛知県)



12月7日 阿蘇火山博物館見学(熊本県)



12月10日 体験プログラム(名古屋友禅染)
(愛知県)



12月11日 ミツカンミュージアム見学(愛知県)



12月12日 東京タワー見学(東京都)

4. 参加者の感想(抜粋)

Aコース グループ1

◆日本といえば“畦道に紅の桜、池端には緑の柳”といった美しい景色が目につく。12月5日、私は中国高校生訪日団第4陣の一員として、ずっと憧れだった日本へ飛んだ。この9日間、日本人の優しさや温かさを肌で感じた。

東京から鹿児島へ行く飛行機から見た真っ白な富士山は壮観だった。鹿児島では湾を挟んで白い噴煙を上げる活火山—桜島が見えた。初めて火山の温泉にも入った。いずれも一生の思い出だ。12月8日、鹿児島県立鹿屋工業高校を訪れた。期待と緊張のバスの中、私は日本の高校生に好印象を残したいと思っていた。車窓から見える山々の木々に時折楓の赤が映え、思わず学校近くの名勝梅湖を思い出した。八大山人記念館の真っ白い塀が緑の木々や赤い花々に映える景色と似ていて、緊張していた気持ちが次第に落ち着いた。

校門を入り、鹿屋工業高校の皆の眩しい笑顔に感化された私は、すぐに打ち解けていった。私は男子ばかりの機械科に振り分けられ、彼らが製作した簡易式電動平衡車を見せてもらった。私達の学校の工業ロボット専攻と同じような感じで、今後、機械科の皆さんが私達の学校の機械電気部を訪問する機会があればきっと双方話題が尽きないだろうと感じた。驚いたことに機械科の授業の中に調理実習があるのだ！

わずか1日の学校交流だったが、日本の高校生と友達になり、プレゼントと連絡先を交換した。今後どれだけ離れても心はずっと繋がっている。

◆今回の日本訪問は東京—地方—東京で、全てが印象深いものだった。東京では随行の通訳ガイドの方が観光地や文化習慣を紹介してくれた。

日本滞在9日間で学校訪問が2回あった。皆とても気さくで、バスが到着するといつも私達に向かって手を振ってくれた。訪問中も私達を友達扱いしてくれた。言葉の壁はあったが、スマートフォンや翻訳ソフトや身振り手振りで頑張っ乗り越えた。一緒にゲームで遊び、授業を受け、掃除をし、礼儀を学んだ。電子科の授業では電子ピアノの回路を作った。私はコンピュータ専攻で電子のことはあまり詳しくないが、授業を受けるうちにだんだん興味が湧き、最後には電子ピアノで“星”というお馴染みの童謡を披露した。

今回は他に天皇の住む皇居の二重橋から人で賑わう浅草寺、芸術感溢れる国立近代美術館工芸館が

ら科学技術のパナソニックセンター、太古の縄文の森から本格的な量の温泉旅館、そして美しい奄美の里や薩摩切子の工房等も見学した。あらゆるところにたゆまぬ努力、妥協しない匠の精神が表れていた。知恵と心を遺憾なく注ぎ込みつつ質を追求し、時間と経験を費やして生涯を通じ、ただ一つのことを極める。その偉大な匠の精神に習いたいと思う。

この日本訪問で、将来自分の仕事に誇りを持つための“希望の灯”を得た。必ず努力して匠の精神に習い、忠実に働いてより良いものを生み出していきたい。

Aコース グループ2

◆日本の2つの高校で過ごした2日間は忘れられない。彼らの熱意で私達の距離がぐんと縮まった。5つの授業を受け、日本の高校生の授業中の様子がよく分かった。私が見たところ、日本の授業は発言と話し合いが主体で、中国の能率的なピンポイント授業とはやはり少し違う。学生が進んで参加し、考えることで素晴らしい効果が出ている。部活動見学で長崎東高校剣道部の稽古を見た。剣道は日本の国粹であるが、私達貴陽一中書画部の学生が宣紙にのびやかに筆を滑らせる様子を思い浮かべた。両国若者達が頑張っている文化の伝承に一役買っているのだ。

日本の学生の清潔好きも見習いたい。私も生活の中で気を付けてはいるがまだ少し劣る。そういう所をもっと大事にしないといけない。

◆匠の精神とは、手仕事のものづくりに限らず、自分の職業や仕事に対し湧き出る情熱と敬意である。以前どこかで聞いたこの言葉を、今回の訪日でじっくり味わえた。

まずはTOTOミュージアムだ。日本はおろか、もはや世界のTOTOだが、現状に満足して立ち止まることなくたゆまず前進し、絶えず新しいものを生み出している。水まわり製品に対する情熱がなければ、研究を重ねて製品を改良することなどできないだろう。

次は北九州市漫画ミュージアムだ。私はアニメファンとして、漫画の世界は漫画家が心血を注いで作り上げたものだということをよく知っている。絵の一つ一つにその漫画家の情熱がこもっている。ミュージアムの5万冊を超える蔵書から、不眠不休で夜通し作業機に向かう漫画家達の姿が目に見えてくる。漫画へのこだわりなしに素晴らしい漫画が描けるだろうか？これも匠の精神ではないか。

他にも印象深かったことはたくさんある。例えば観光地の建造物は匠達が煉瓦や瓦を積み上げて築いたもので、店に並ぶ手の込んだ工芸品は一つ一つ匠の手によって作られたもの…匠の精神は一種の風潮だと思う。その風潮の中で誠意や責任感という特性が生まれ、いつしか民族全体が感化されたのだろう。

今後私は自分に厳しく、頑張る“匠”になれるよう、もっと素晴らしい自分を目指し一歩ずつ進んでいきたい。

Aコース グループ3

◆今回の訪日のテーマは“ものづくり”だ。中国高校生訪日団の一員として日本で交流に参加でき光栄だ。

まず私達は東京で北條規先生の“日本のものづくりの発展と精神性について”のお話を聞いた。このセミナーを通じ、工芸品作りに妥協しない精神や日本製品が世界で人気の理由がよく分かった。これも私達が今後学ばなければならないところだ。私は日本の製品は“小さい”ことが最大の特徴だと思うが、使いやすさの面でも大変よく考えられている。

この数日間、歴史ある建物の見学もしたが、これも匠の技の結晶だ。私達は綺麗な景色を見て地元の文化を学び、日本人の信仰—平和を知った。

一番印象深いのは波佐見町の陶芸と棚田だ。陶器はとても精巧に出来ていて、棚田は世界最長だ。それに、からつ曳山展示場には十数台の曳山がずらりと並び迫力満点だ。ここにも匠の技が表れている。

日本は面積も小さくその70%は山林だが、地面は衛生的で、水道水も飲める。これは中国が学んで改善すべき点だと思う。

一番楽しかったのは長崎と福岡の学校交流の2日間だ。学生も先生も大変親切でクラスの雰囲気もいい。国内では少ない部活動も体験し、新しい友達がたくさん出来た。

最後にもう一度言うが、日本に来られてとても幸せだ。これから真面目に勉強しようと思う。そしてもっとすばらしい中日関係ができればいいと思う。

◆忘れられない日本の旅になった。今回の訪問で喜びを感じ、友情を得、匠の精神を知った。中でも忘れられないのは学校交流だ。

初めて訪問する時、私は日本の高校生との間に隔りを感じるだろうと思っていた。でも弁当を持って教室に入った時、温かい飲み物を手渡してくれたり、Rap Monster という自分の英語名と BTS のチャットを立ち上げたことを教えてくれたり、その度私は心に温もりを感じた。私達は国や言葉の壁を越え、心と心で交流した。とても楽しくて全く疲れなかった。別れの時、皆一生懸命手を振ってくれた。私達もバスの中から手を振り応えた。ほんのひとときだったが、お互い人生の大事な思い出になった。また会えるかどうか分からないけど、今が最高すぎて、これ以上の未来を望むとバチが当たりそうだ。

今後、勉強や生活の中で日本の匠の精神を見習いたい。仕事に対して手を抜かず、将来、全世界の発展のために少しでも役に立ちたい。

Bコース グループ1

◆9日間の訪日で、異なる学校を見学し、異なる場所の民族文化や歴史文化に触れた。1日目は東京に着いた。東京ではセミナーがあり、日本のものづくりと精神性の話を聞いた。日本の匠は小型化した便利な物をよく作るが、その時考えるのは使いやすさと人に迷惑をかけないことだそう。このセミナーには感じるものがあった。私は普段から大雑把で細かいことをないがしろにしてよく人に迷惑をかけている。セミナーの話を聞いて自分のこの悪い癖を直したいと思った。3日目は熊本県に行き、工芸品作りを体験し地元の温泉に入った。どちらも心を落ち着けて、やってみて初めてその面白味を味わえる。また熊本県立八代工業高校と名古屋大学教育学部附属高校に行き、一緒に授業を受け、実習を見学した。熊本県立八代工業高校では女子が溶接しているのを見て驚いた。女の子が溶接なんて！その時も少し信じられない気持ちだったが、確かにこの目で見たし、やはり感心した。これからは頑張っ勉強し、今までやったことがないことをやってみたい。

◆“人生は旅だ”というが、今回の訪日は私の人生の旅路に深い思い出を刻んだ。両足で日本の国土を踏みしめた時、異なる土地や人々に自分がとてもちっぽけに思えた。一番感動したのは礼儀だ。人に向かってお辞儀をするとその人も必ずこちらに向かって礼を返してくれる。例えば毎日のバス乗降時、運転手さんはいつも礼儀正しく親切だ。こちらが一言挨拶すれば、誠実な眼差しと優しい微笑みで挨拶を返してくれる。日本では礼儀が徹底していると感じた。

物事に集中し、ひたむきなところも日本人の大きな特徴だ。運転手さんのバスは安定した走りで、“穏やか”に動き始め、急がず焦らず運行し、静かに止まる。これも匠の精神の表れだ。そして使いやすさを追求し、真面目に取り組むところ。羽田空港でも熊本空港でも、責任感ある真面目な職員に感心の溜息が出た。人に優しいデザインも数知れない。例えば空港の消火栓の上部に緊急救助電話が設置してある。部屋の電気は手を伸ばせば届く。このように人のためにデザインされたものは皆高品質だ。

今回のテーマはものづくりだったが、本当に勉強になった。匠は心をこめて製作し、使う人の気持ちも考える。どの匠もひたむきで一途で真面目で、相手の身になって考えるという信念を持っている。生活の中でも人に迷惑をかけず自活し、真面目に励んで人と仲良くできればきっとこの上ない喜びを感じられると思う。

Bコース グループ2

◆訪日で一番印象深いのは学校交流だ。私達が訪問した熊本県立八代清流高校と名古屋市立名古屋商業高校はどちらも大変親切で、授業は活気があって温もりを感じた。共に学び合い、分かり合い、交流し、すぐ学校の雰囲気にも馴染めた。交流する中で英語がとても大事だと分かった。帰ったら絶対にもっと英語の勉強をしようと思った。本当にすごく大事だ。

交流では言葉のコミュニケーションが少し難しかったが、知り合いたい、分かり合いたいという熱い気持ちは伝わってきた。話し合い、互いの国や学校や地元の文化を紹介し、共に鑑賞し、日中の違いも感じた。例えば1時間の時差、部活動文化、生活様式の違いだ。共通点は“匠の精神”で、私達が皆持っているものだ。それは仕事に関する責任感、モラル、能力、質の表れであり、優れた創造性でたゆまず品質を極める顧客優先のサービス精神だ。また、学校の違いは一方が普通高校でもう一方が商業高校だが、どちらも国や社会の発展のために知識を増やし、異なる文化を学んでいる。今回の交流で新しい友達がたくさんできた。

この先、交流できる機会がもっと増えればいい。両国の友好関係を大事に守り、世界中の人達がすばらしい生活を送れるよう、共に努力して両国の友好関係を発展させていきたい。

◆12月8日と12月11日にそれぞれ熊本県立八代清流高校と名古屋市立名古屋商業高校を訪問した。どちらの学生もすごく親切で、言葉の壁はあったが主に身振り手振りで言いたいことを伝え合い、交流には何の支障もなかった。別れの時の情景もまだはっきりと目に浮かぶ。期間中いろいろな所を見学した。中でも熊本城はとても感動した。石や瓦の一つ一つが緻密な計算の上に組み立てられ、このような城を築くのに多大な時間と精力を費やしたことだろう。ここにも優れた匠の精神が表れている。またガイドさんや運転手さん、ホテルやレストランのスタッフ等、初対面の私達にも笑顔と気配りで接してくれた。これが仕事に対する心得というものだろう。もうすぐ新社会人として働く私にとってはすばらしいお手本だ。人と誠実に接することは重要なことなのだ。

中日の共通点と相違点が一番はっきり表れるのは多分、食卓だ。どちらも米が主食、箸で食べる。でも中国は料理を温かいうちに食べるのに対し、日本は生ものや冷たいものが多い。同じように道路の横断、礼儀、生活様式等にも現れている。一番心に残っているのは熊本県立八代清流高校に着いた時のことだ。小雨が降り出し、車窓のカーテンを開けて見たら、学生が三人、傘もささずにきちんと立って待っていてくれた。心遣いを感じた。

Bコース グループ3

◆今回の訪日では名古屋の友禅染めが印象深い。染色の過程で匠の精神のすごさを体感した。心が静まり、ただ染色にだけ集中する。友禅染めは元禄時代の扇絵師“宮崎友禅齋”が始めた技法で、和服の雛形が元になっている。今日の京友禅は工程ごとに専門の職人が製作し、全体的に“豪華絢爛”な物が良いとされる。体験してみて職人の技に対するこだわり、少しの妥協も許さず、お金のためとはいえ、一つの作品に生涯をかける信念を知った。

◆今回訪問した熊本県立熊本西高校で、日本の高校生と一緒に英語と家庭科の授業を受けた。料理が全くダメな私は、日本の高校生に手取り足取り教えてもらい、ついに熊本のご当地おやつが完成した。一緒に労働の成果を味わいながらお喋りして、すごく楽しかった。

愛知県立東海南高校のバレー友善試合もすばらしかった。学び合い、技術を磨く、そのファイトある姿勢からも私は匠の精神を感じた。匠の精神はいたるところにある。物事を真剣に徹底的に取り組み、妥協せずに完璧を目指す心こそ、匠の精神なのだ。

◆今回の訪日、事前研修を含め、わずか2週間の間に、いいなと思ったことがたくさんあった。まず日本の第一印象は街が整い清潔感があるということだ。きっちり並ぶ建物も新鮮さを覚えた。次に、熊本県立熊本西高校を訪問したことが一番印象深い。私達は実際に茶道や剣道、柔道等の日本文化に触れて理解した。特に忘れられないのは先生と学生達の熱意だ。ものづくりのテーマに関する見学では名古屋の友禅染めを体験した。観光地の建物の中では友禅染め工房が一番シンプルかもしれない。屋根は低く、物干しロープが渡してあり、ポットが湯気を立てる側で時々柴犬が吠えている。これが日本家屋の実際といえよう。和服柄の手描きは複雑で、男の私には難しかったが、それでも楽しかった。特に自分の作品を持って先生と一緒に写真を撮った時はとても誇らしい気持ちだった。

今回“ものづくり”というテーマだが、日本製品の細部には学ぶポイントがある。例えば朝食のナプキンの袋には一カ所切り込みが入れてある。シンプルな仕掛けだが、とても使いやすい。またトイレットペーパーは100秒以内に溶ける。衛生的で紙の節約にもなる。違う業界では例えば北京から東京への移動の際、搭乗したANAの飛行機で、客室乗務員に空のペプシ缶を貰えないか頼んだところ、まずは丁寧に断られたのだが、なんとその後ANAの葉書を3枚くれたのだ。客の些細なことをも心に留めるサービスに感動した。ANAがフォーチュングローバル500になる理由が分かる。

5. 受入れ側の感想

◆日本高校生

○今回の中国高校生の来校で、私は非常に驚かされることがたくさんありました。

最初は、お互いの自己紹介で彼らは私達よりも英語ができると聞いていて、英語で自己紹介をしたらあまり伝わらず、中国語で話しかけられて驚きました。

次に、彼らがフレンドリーなのに驚きました。スマートフォンの翻訳機能を使って会話をしようとした時、いろんなことを話してくれ、「写真を撮ってもいい？」と尋ねて、笑顔で「いいよ」と答えてくれ、あちらの方から肩を組み、写真を撮りました。

他にも、折り紙や民族舞踊、スポーツなど幅広い趣味、特技を持っていて、そこでもすごいなと思いました。今の日本高校生と比較して、勉強面や社交性において、あちらの方が上なんだと気付きました。彼らとの交流をもっと深め、私達が今必要なものは何なのかと気付いていき、それらを身に付けていったら、今の日本は変わっていくのではないかと私は思いました。

○なんとなく参加した行事でしたが、私の人生に大きく影響した1日でした。

今回の交流の中で、日本語が通じないため、ホワイトボードや翻訳アプリ、ジェスチャーなどでなんとかコミュニケーションを取るということがどれほど大変か、どれほど難しいか身をもって知りました。

また、自分がいかに無力かも分かりました。最初に「人生に大きく影響した」と書きましたが、そう思ったのは今回の交流で私の目標が決まったからです。今までは勉強より音楽を聴くことやゲームに夢中になっていました。しかし、交流の中でスムーズに会話ができず、悔しい思いをして、勉強したいと思うようになりました。交流会が終わってから、勉強の大切さを知ってから学校生活が充実している感じがします。

このように思うことができたのはこの交流会のおかげです。この経験のすばらしさをより多くの人に知ってもらい、自分自身もさらに成長できるように、今回の交流をこれからの生活に十分生かしていきたいです。

○今回の交流会で私は驚き、感動したことが2つある。1つは中国の高校生の英語力の高さだ。母国語ではないはずなのに流暢に話していて、日本では英語が話せる方がレアな存在なのに、海を渡ればそれは普通のことではないのだと痛感した。少し焦りも感じた。2つ目は貪欲さだ。数学や生物など日本語の授業を一緒に受け、ほとんど理解できていないはずなのに、なんとかして理解しようとしたり、積極的に質問したりと、私達よりも何倍も貪欲だった。

また、最後に私はバディと将来の夢について語った。言葉足らずだったが、それでもとても熱く語り合った。やはり国が違えば考え方も違うのかと思っていたが、似ているところもあって、面と向かって初めて知ることも多いのだと思った。今回の交流で同世代の国籍の違う高校生と交流することができ、たくさんのことを学ばせてもらった。国は違っても一緒に夢を語り合えたのはすごく嬉しく、楽しい時間だった。バディと最後に約束した通り、お互い夢を叶えて、またいつか再会したいと思う。

○今回の中国の方との交流はとても良い経験となりました。言語の壁があっても、英語で物事を伝える難しさをより痛感しました。中国の方はとてもフレンドリーに接してくださり、とても楽しい時間を過ごすことができたと思います。一緒に昼食を食べたり、授業を受けたりして、言語の壁があっても、一緒に時間を過ごすことで、楽しくコミュニケーションを取ることができました。たった1日という短い時間の中でも、日本という国を少しでも深く知ってもらえたと思うと光栄です。日本と中国の国家間では、課題がいろいろありますが、今回のような交流を通して、お互いのことをよく知り、日中関係のわだかまりがなくなっていくといいと思います。これからもっと英語を勉強して、より良い国際交流ができればよいと思います。今回はとても貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。

○学校交流など初めての経験であり、英語はどちらの母国語でもないので、どうすればいいんだろうと思っていました。しかし、意外とどうにかなるもので、英語はもちろん絵やジェスチャーも駆使して、いろいろな話ができてよかったです。

日本に来て驚いたこととして、空が青いことと、水道の水がそのまま飲めることを挙げていて、私達が当たり前だと思っていることが他の国では違うのだと思い知らされました。

また、中国の高校生達の積極性や親しみやすさを感じることができ、私の中にあつた中国に対する

イメージも変わりました。この交流会を通して、他国の人と通じ合える喜びを感じることができました。お別れの時はとても寂しかったです。

○中国の生徒さんと過ごした1日はとても楽しく、忘れられない1日になりました。

中国の生徒さんと一緒に授業を受けたり、お昼ご飯を食べたりしました。数学の授業で私が発表する問題を解けなかったため、バディの中国生徒さんに頼むと黒板にスラスラ書いてくれたのが衝撃的で、中国の教育レベルの高さを垣間見ました。一緒にいるうちに、学校生活のこと、将来のことまで話が膨らみました。私はそれがとても嬉しかったです。

また、この日、私は中国の生徒さんから大きなことを学びました。それは「自信を持つこと」です。中国の生徒さん達は発表の場でとても積極的で「自分の意見を人に伝えたい」という気持ちが強く、手を挙げるのに躊躇することがありませんでした。私は中国の生徒さんたちの英語力が極めて高かったことも積極性があることの1つの理由だと思いました。だから、私はその時、積極性を大切にしようと思われ、お別れの会で勇気を持って手を挙げ、感想を発表しました。発表を終えて、座った時、バディの生徒さんが笑顔で拍手をしてくれました。この経験は今私の自信となっています。大きく成長できた1日だったと感じました。この活動に関わっていただいた全ての方に感謝したいです。ありがとうございました。

○今回、初めて中国の方々と交流しました。私は、英語の授業と昼食を、中国の方々と過ごしました。英語の授業は、中国の方々の英語力や積極性に驚きました。知らない人がたくさんいて、いつも違う環境でも、積極的に挙手、発言していたので、すごいと思いました。私は、少し緊張してしまって、あまり発言などをすることができなかつたので、中国の方々を見習わなければならないと思いました。また、昼食では、中国の方々の優しさを感じました。楽しい話題を振ってくださったり、お弁当を交換してくださったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今回の中国の方々と交流会で様々なことを学ぶことができました。中国の方々の良いところをまねして、これからの生活がもっと良くなるように、生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○中国の高校生との交流は私にとって初めての体験で、とても良い刺激になりました。お互いに第一言語が英語ではないのでコミュニケーションを取るのがかなり大変でした。また、それぞれに自国のなまりがあつて聞き取れないこと、理解してもらえない事態が多発していました。それでも会話をしようと懸命に頑張り、楽しんでいる子がたくさんいたのでよかつたと思います。両国ともに3~5人のグループに分かれて、一緒にお昼を食べたのですが、そこで中国人の子が急に「おいしい!」と言つたことにとても驚きました。後から先生に聞いて分かつたことですが、中国の子たちが事前に日本語を覚えてきてくれたようです。私達はといえば、特に中国のことを調べることもなかつたので、嬉しさとともに少し申し訳なさも感じました。次にこのような国際交流ができる機会があれば、相手の国について知つておいたり、日本のお土産を準備しておきたいと思われ。

今回のイベントで国際交流への興味がさらに深まり、こういったものにもっともつと積極的に参加していきたいです。

○言葉の壁を感じた。身振りや手振りで伝えようとするが、それも難しく感じた。しかし、逆に身振りや手振りで自分の言いたいことが伝わると、嬉しい気持ちになり、それが世界共通の言葉だつたり

もするのかと思ったりもした。このような機会は私達にとっても、中国の方々にとってもとても良いものになったと思った。ほとんど互いの言葉を知らない中で、お互いの思いを伝え合う、ただこれだけのこともかもしれないが、その中には、今、この人は何を言いたいのだろう、どんなことを伝えたいのだろうと少し考えることになる。それだけでも交流の深みはより深いものへとなるだろう。今後は、自分達が外国に行って、このような活動をしてみたいと思ったし、もっと自分達の伝えたいこと伝える術を身に付けていかないといけないとも思った。今回は本当にありがとうございました。

○今回の国際交流で、初めて中国の人と交流しました。中国の人たちとは英語でもなかなか通じなくて、思っていること・感じていることがお互いにあるはずなのに、それがうまく伝えられないことが悔しいと感じました。でも、中国の人達は言葉がうまく通じなくても動作や絵で伝えようとしてくれてとても嬉しく思いました。また、私が伝えたいことがあると、中国の人達の方が頭の回転が速く、すぐに理解をしてくれたので、何度も助けられました。一緒に作ったプレゼンでは、お互い次々アイデアが出てきて、まとめるのに大変でしたが、原稿を考えてくれたり、パワーポイントのデザインや画像選びをしてくれて楽しくできました。プレゼンを作っている時に、きらきら星の中国語版の歌を特別に教えてもらいましたが、難しくあまり覚えられませんでした。でも、日本のきらきら星とはまた違った印象で、聴いても歌っても面白いなと思いました。プレゼンは準備時間が少なく本番グダグダになってしまいましたが、みんなが笑顔で楽しんでできました。

他の国と交流するのはとても貴重で、感じるものがたくさんありました。その中でもやはり強く感じたのは、言葉が伝わらない悔しさです。せつかくの機会なのだからもっと勉強して、より良いコミュニケーションを取れるようにしたいと思いました。また交流したいです。

○今回、「中国高校生が 27 名来ます」と先生から聞いた時にとっても嬉しかったです。そして自分のクラスがその担当になったと言われた時に、「絶対に楽しかったという気持ちで帰ってもらうぞ」と決意しました。私が中国語を話せるわけではないけれど、英語が得意なので、英語での案内を頑張ろうと決め、班長に立候補しました。班長という立場で担当の先生とのコミュニケーションを大切に、今回の訪日団のおもてなしをしました。終わった後の達成感は大きく、先生方から嬉しいお言葉もたくさん頂くことができ、もっと語学を頑張りたいと思いました。そして、交流が終わり 2 日経った今でも、instagram というアプリで 4 名の中国人高校生との交流が続いています。当日の朝配られたプリントにあった「今回の交流が一時的でなく、この日が交流のスタートになることを望みます」という目標は達成できたと思います。とても楽しい午後の時間を過ごすことができ、さらに英語力も試すことができ、充実した日でした。このような機会を作ってください、ありがとうございました。確実に今後の私にとってプラスになると感じています。

○中国人高校生との交流について、最初は彼らがどんな学校から来たのか、どのようにコミュニケーションを取ろうか分からず、少し不安でした。彼らのプレゼンテーションを見て、とても大きな高校から来ているんだなと分かり、特に校舎やグラウンド、学校祭などの規模が日本よりとても大きく、驚きました。また、彼らの気さくな様子を見て、僕らと同じ高校生なんだと、少し親近感が湧きました。その後行ったバレーボール交流では、彼らの流暢な英語を十分に理解できず、少しコミュニケーションに戸惑うこともありましたが、バレーボールという一つのスポーツを通して、一緒に得点を決めることで盛り上がりたり、ミスをして励まし合ったり、言葉を越えた一体感を味わうことができ、彼らとスポーツの楽しさを共有できてとても嬉しかったし、楽

しかったです。しかし、彼らの伝えたい事をもっと理解できれば、より楽しめただろうと思い、改めて言葉を通じての意思疎通の大切さを実感しました。この貴重な体験を今後の学校生活、人生で活かしていけたらと思います。とてもいい思い出になりました。

6. 参加者の対外発信

12月5日／高校生／WeChat	12月8日／高校生／Weibo
<p>  </p>	<p>  </p>
<p> 日本理解についての発信 日本は本当に清潔だと言わざるを得ない。空港内にはゴミ箱が見当たらないにもかかわらず、ゴミの一つも落ちていない。日本のゴミ箱は明確に分類されていて、ゴミをポイ捨てる人などいない。空港は北京ほど大きくはないが、混み合っておらず、人々はルールを守っている。エスカレーターに乗る時は皆、自然と片側に立つ。日本では左側に立つので要注意！ 私たちも郷に入っては郷に従えで、一列縦隊になって左側に立った。北京での研修で、日本に対するある程度の認識があったので、特に驚くこともなかった。 </p>	<p> 学校訪問についての発信 楽しい一日だった。たくさんの友達もできた。私達は連絡を取り続けて、一生涯の友達になるだろう。 </p>

12月9日／高校生／Wechat

日餐，小巧精致的嫩，但是就是有点少，味道调的非常到位，每个酱汁，佳肴虽不起眼，但味道香浓，让人眼前一亮。



8分钟前

日本瓷器
在这家公司里全部的工人工龄都超过20年，每个人只做一个工序，做了上万个，学徒要做10年，真是一生只做一件事，碗都像机器做的，线条的长度宽度，间距都基本相同。



12月9日／高校生／Weibo

#jenesys2017第四批中国高中生访日团#有幸参加2017年第四批中国高中生访日团，就在昨天12月8日，我们去访问了熊本县立熊本西高中。还没等下大巴车，我们已经看到热情的日本高中生热情地向我们挥手，当然我们也非常激动与兴奋。进入高中，我们同日本学生开了欢迎会，同时我们也与他们上了英语课，美术课等，还参观了日本高中的社团活动，感受到了丰富多彩的学校生活。我们还赠送日本学生精美礼物，向他们表示我们的心情与感受。最后在开完欢迎会后，大家又热情地聚到一起合影。虽然中日两国政府关系时有轻微矛盾，但我们两国青少年一代却其乐融融。我感受到了他们给我们带来的温暖，也收获到了许多，体验了日本学生的学校生活。本次访问可以说是收获满满，惊喜多多，值得纪念！

最后欢迎日本学生来访中国，我们同样会以热情的态度去迎接！



日本理解についての発信

日本食。細かくて精巧、ただやや少なめだ。味付けはちょうどよく、派手ではないが、どの料理も香り高く、目の前がぱっと華やぐ。

日本の陶磁器。ここの窯元の職人の職人歴は全員20年を超えている。一人が一工程のみを行い、それを長年にわたり繰り返す。弟子は10年勤めなければならない。一生に一つのことだけをやり遂げるのだ。出来上がったお椀は機械が作ったように長さや幅が全て同じであった。

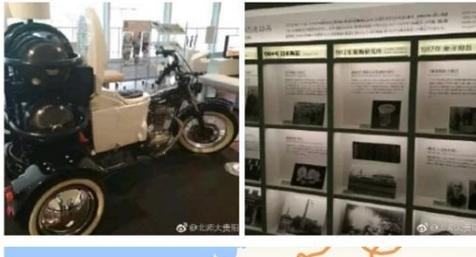
学校訪問についての発信

2017年度中国高校生訪日団第4陣に参加できて幸せだ。昨日12月8日私達は熊本県立熊本西高校を訪問した。バスを降りる前から、日本の高校生が私達に一生懸命に手を振っているのが見え、私達はすっかり興奮した。高校に入ると、歓迎会があり、日本の生徒と一緒に英語や美術の授業を受け、部活動を見学し、日本の高校生の多彩な学校生活を感じることができた。私達は日本の生徒にプレゼントを贈り、気持ちを伝えた。最後に、歓送会後、みんなでわいわいと写真を撮り合った。中日両国政府間の関係では一定の問題を抱えているが、私達青少年世代は打ち解けることができた。私は日本の高校生達の温かさを感じ、多くのものを得、日本の高校生の学生生活を体験した。今回の訪問ではたくさんの収穫とサプライズがあり、記念すべき経験となった！
最後に、日本の生徒にもぜひ中国を訪れてほしい、私達は今回の日本の生徒達と同じように心をこめて迎えるつもりだ！

12月9日／高校生／Weibo

12-9 22:27

#jenesys2017第四批中国高中生访日团#今天我去了TOTO博物馆，了解了TOTO公司的发展史，TOTO公司对马桶进行不断改良，精益求精，追求极致，为社会做出自己的贡献，这便是工匠精神的体现:坚持不懈，力争完美。我的感受颇深，我会将这种精神在生活学习中践行，让自己的人生更精彩!



12月9日／高校生／WeChat

今天09:02

今天来到了熊本城和水前寺，有一个热情的导游为我们介绍熊本城，带我们去看了江户时代的建筑物，有着400多年的历史，至今还有一些还保存的这么完善，尽管经个两次地震，但始终还是没有垮塌，可想而知当时的人是多么的智慧，多么的聪明，在热情的导游介绍下，我感受到熊本城的历史文化的丰富，简直是多姿多彩，希望下次有机会来这里的时候，已经维修好了。



テーマに関する視察についての発信

今日は TOTO ミュージアムを見学し、TOTO 発展の歴史を学んだ。TOTO は製品を絶え間なく改良し続け、磨き上げ、究極を追求していくことで社会に貢献してきた。まさに、完璧を目指したゆまぬ努力をする、というものづくりの精神そのものだ。私は深く感銘を受けた。この精神を生活や学習の上で実行し、自分の人生をよりすばらしいものにしていきたい!

日本理解についての発信

今日は熊本城と水前寺を見学した。熱心なボランティアガイドさんが熊本城を紹介してくれ、江戸時代の建築物を案内してくれた。400 年以上の歴史がありながら、今もなお一部は完璧に保存されている。2 度にわたる地震を経ても崩れることはなかった。当時の人々はどれだけの知恵があり、どれだけ賢かったことか。ガイドさんの心のこもった案内から、熊本城の歴史文化が多彩で豊かであることを感じた。次回ここに来る頃には修復が完了してほしい。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p><A コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントや PPT を使い、写真を織り交ぜながら先生方やクラスメイトに紹介したい。また、日本語を勉強して交流を深めたい。 ・①自分が見て感じ考えたことを家族や友達と共有する②駐中国日本国大使館の Weibo をフォローし、積極的にコメントする③日本で知り合った友達と WeChat や E-mail で連絡を取り合い、良い関係を続けていく④日本の匠の精神に学び、学習生活に生かす⑤日本人の礼儀や思いやりを見習い、自分に習慣づける。 ・日本で目にしたこと、体験したこと、日本の友達の厚い真心を、学校だよりや校内放送、学級会やホームページ、Weibo 等で広く発信し共有する。 ・日本の友達を私の国、故郷に招待したい。小さな友好使者として中日の友情を学校や故郷に広めたい！ 	<p><B コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人が親切なこと、壮観な日本建築や美しい日本庭園、いろいろな礼儀作法を教わったことなどについて、両親やクラスメイトと共有する。SNS で日本に対する考えを発信し、クラスメイトや友達に日本の多様な文化についてももっと知ってもらう。また、生活の中で日本に関する情報を注視し、交流の機会があれば積極的に参加したい。進んで人に挨拶したり、ゴミを分類して捨てたり、日本社会の良さを生活に取り入れたい。 ・帰国したらやりたいこと。1. 今回の訪日をテーマに、学級会や講演会、校内放送でレポートして、日本での体験、見聞きしたことを紹介する。2. 環境保護関連の体験を学校やクラス、部活動で紹介し、ゴミ拾い活動や勤労ウィークを展開する。3. 日本で学んだ知識を生活や学習、あるいは卒論に取り入れる。4. 日本語を勉強し、日本の映画やドラマを観、日本の歴史や文化に対する理解を深め、日本の友達と連絡を取り合って常に交流する。